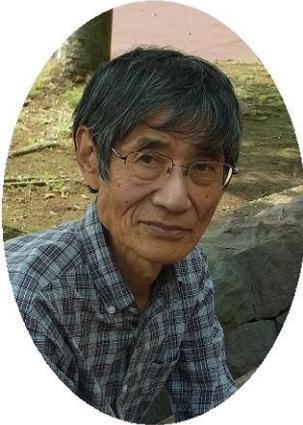


連載コラム（番外編）

もとよしふさお
著者・本吉総男さんのご紹介



2014年5月から毎月連載で「[みずき野とその周辺の植物と昆虫](#)」を寄稿いただいている7丁目の本吉さん。どんな方なのでしょう。お話を伺ってきました。



本吉総男さん

植物や昆虫の話をしていると、とっても楽しそうな本吉さん。次々と楽しい話題が尽きません。

本吉さんは大学入学までは東京に暮らし、京都大学大学院（農林生物学専攻）で博士号を取得。同大学や24年間の農水省の研究所勤務などを経た後、約10年間岡山大学・資源生物科学研究の教授を務められた研究者です。子供の頃から植物や昆虫に興味があり、中学生で『ファール昆虫記』を全巻読破したとか。

みずき野には第2期（昭和58年）に入居。岡山大学での勤務を終えて、みずき野に戻って以来、健康のためにと近隣を散策しながら、この辺にはどんな植物が

生息して、どんな昆虫がいるんだろうと観察を始め、珍しいものを見つけてはカメラに収めているそうです。そんな中から、いつもきれいな写真を添えて興味深い記事を書いてくださっているのですね。[町内会ホームページ](#)の季節感あふれる自然の写真も本吉さん撮影です。

本吉さんにとってみずき野の魅力は、周辺地域も含めて手つかずの自然が残っていたり、田んぼやあぜ道もあって希少な生物が多いところ。第二調整池や、愛宕中学そばの野鳥の森などはお気に入りの場所とのことです。定年退職後は時間にも余裕ができて、「この花を奈良時代の人たちは知っていたのだろうか？」と万葉集をひもといてみたり、「ゲーテ作詞によるドイツ歌曲『野ばら』とはどのバラのことだろうか？」といろいろな文献を調べたりと、研究者時代とはまた違った新たな好奇心が湧いてきているそうです。連載コラムの中で、よく万葉集の歌が引用されているのはこのためだったのですね。



“やまぼうし”にカメラを向ける本吉さん



散歩のときも、いつも持ち歩いている愛用のPENTAXカメラ



クローバーの葉にある白い模様は遺伝するのだそうです。

5月31日さくらの杜公園にて

さて、本吉さんの専門は「植物遺伝学」、「植物ウイルス学」です。具体的にはどのような研究をされていたのでしょうか？ 難しい研究の話をつかりやすく説明していただきました。それによると……。植物が病気などに耐えるべく持っている性質のことを「抵抗性」と呼ぶそうですが、本吉さんはトマトをサンプルとして用いて、この抵抗性が遺伝するメカニズムを遺伝子レベルで解明する研究をされていたとのこと。こういった基礎研究があつてはじめて、農作物の品種改良などの研究も進むのでしょうか。また、植物が病気を引き起こす病原体となるウイルスを消滅させるために、植物にとってのワクチンともいえる「弱毒ウイルス」を作る研究も進めました。実際に、メロンの表面に黒い斑点が出てしまうモザイク病の弱毒ウイルスを考案し、実用化されたそうです。第一線の研究からは退かれてすでに 15 年程ですが、専門分野のその後の研究動向は今もウオッチしているとのこと。

コラムの記事を読んだり、お話を伺っていると、今まで見過ごしていた小さな花を見かけても、花の付き方がどうだろうか、などといろいろと興味が湧いてきます。これからも、本吉さんには、思わず「へえ～、こんな植物があるんだ」、「こんな面白い習性をもった昆虫がみずき野にいるんだ」というような楽しい情報の提供を期待しています。

本吉さんのプロフィール

昭和 9 年	東京生まれ
昭和 40 年	京都大学大学院 農学研究科博士課程 農林生物学専攻 博士号取得
昭和 41 年	農林水産省所轄の研究所 (植物ウイルス研究所、農業技術研究所、農業生物資源研究所) に勤務 (現・独立行政法人農業生物資源研究所)
平成 2～12 年	岡山大学 資源生物科学研究所 教授 (現・岡山大学 資源植物科学研究所)

2016 年 6 月 1 日 北川